

取り組んだ テーマ	『生活環境に課題のある児童生徒の家庭等への働きかけや具体的支援』
----------------------	---

1 達成に向けた手立て

各自1例ずつ出して、それに対して行った取り組みを検証する。

- ・SSWがどう関わるか → 本人・保護者のアセスメント、関係機関などから情報収集
- ・関係機関を含めたケース会議、定期的な保護者との面談

保護者が「困ってない」と認識していないなかで、子どもの権利を考えSSWとしてどう関われるか。
→ その子の課題を保護者と認識してもらうように、どう保護者に関わっていくか。

2 取組の成果と課題

成 果	課 題
<p>教員とSSWがケースのアセスメントを共有することによって、課題が明確となり、アプローチの方法について具体化することができた。</p> <p>教員とSSWと保護者の定期的な面談を実施することにより、保護者との信頼関係を構築し、保護者が困り感を持てるようになり、その先の必要な資源につなげることができた。</p> <p>さらに、保護者が子どものこの先を考え、行動しないといけないと考えるようになった。</p>	<p>関係機関が入っていても、それぞれの温度差によって、支援の統一化ができていない。</p> <p>保護者が、本人と他者との関わりを遮断しがちなため、SSWは直接本人と関わることへの課題に直面している。(保護者が社会と関わらないため、子どもへの影響がある)</p> <p>保護者との面談を重ねても、本人の状態によって保護者の考えが揺れて、本人に対しての具体的なアプローチができなかった。</p>

3 次年度に向けて

- ・保護者間で、こどものことについて思いを共有して、こどもの課題と一緒に取り組めるようになるように、SSWは面談を通して寄り添い働きかけ続ける。
- ・関係機関のチーム体制づくり
- ・本人には会えないケースでも、キーパーソンとの面談によって、本人の課題と一緒に取り組めるよう、関係をつくっていく。
- ・関係が作りにくい保護者に対して、すでに入っている関係機関と連携をし、学校側の視点を関係機関の方から保護者に伝えてもらうなど、後方支援で関わる。